

みんなで春を楽しもう♪

志知城跡

第2回

まつり

2025
3.30日

13:00▶15:00

雨天中止(小雨決行)

会場 志知城跡

南あわじ市志知松本349

イベント内容

13:00
から

オープニング
和太鼓 志童

13:30
から

缶バッチプレゼント
クイズラリー

14:00
から

前田拓也先生による
歴史講座(200円事前予約制)

無料 ふるまい



ほほえみ会による
志知城餅(先着200個)



ポップコーン&わたがし
お菓子(先着100名様)

歴史講座
定員50名
事前予約制



情報配信中

志知城跡
Instagram



志知城跡の

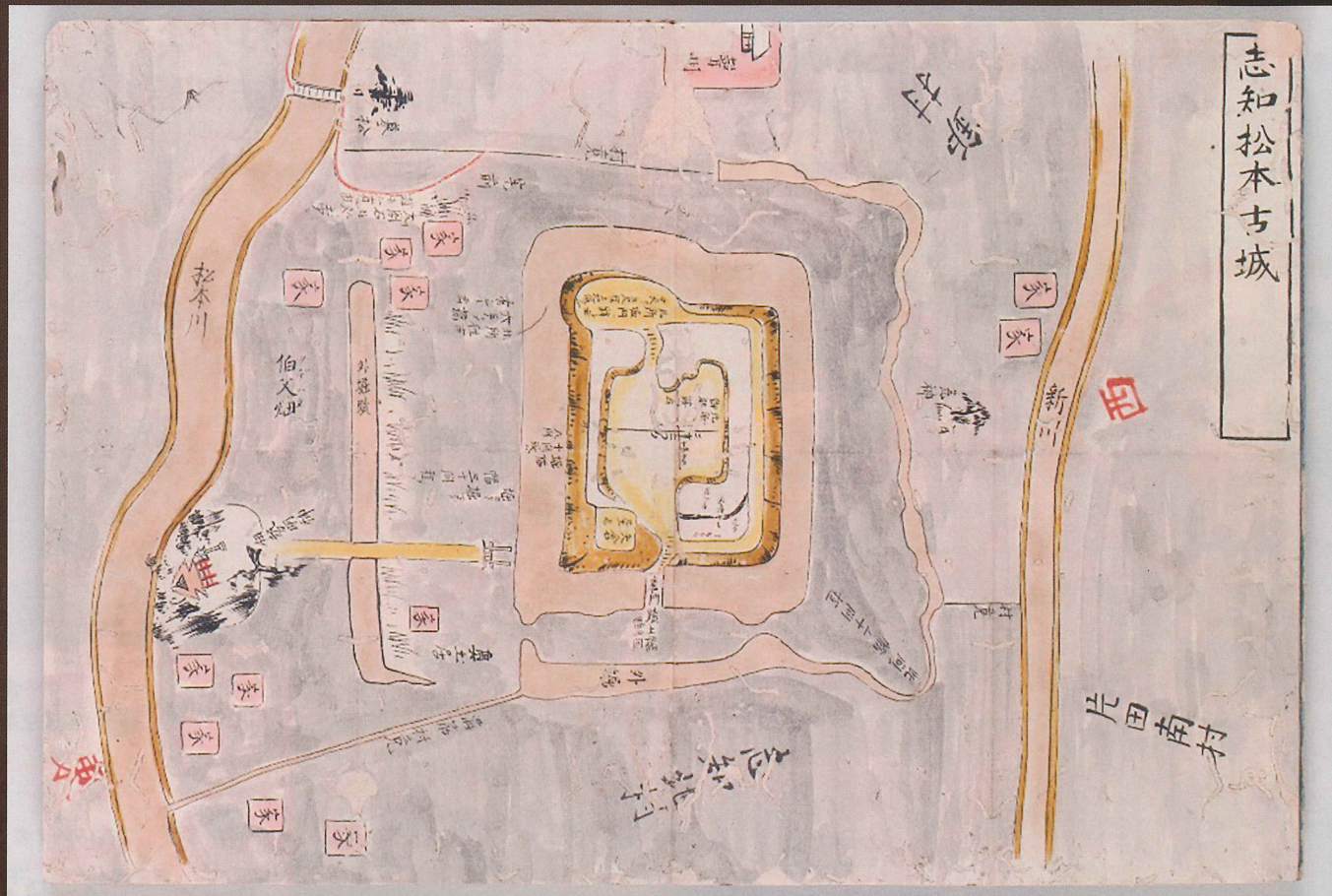
今と昔



現在の志知城跡空撮

三原平野の一角にあり、松本城（旧三原町志知松本）とも呼ぶ。県道うずしおラインに近く、群生するアシに埋もれた堀に囲まれている。室町時代の養直館（旧三原町八木）、江戸時代の洲本城とともに築城法を知る重要な遺跡。

提供機関：淡路名所図会 志知松本古城 兵庫県立歴史博物館蔵



この城は鎌倉時代、菅和泉守道忠が築いたが、戦国時代になって「淡路十人衆」の一人、野口氏の館となった。天正9年（1581年）織田信長の先陣、羽柴秀吉が由良城に総攻撃をかけ、城主安宅氏をはじめ淡路の土豪たちすべてを降伏させた。翌10年に起きた「本能寺の変」のあと、天下は秀吉のものとなり、さっそく新しい封建大名として志知城に黒田孝高を配し、さらに加藤嘉明に同城と1万5千石を与えた。脇坂安治に洲本城と3万石を与えたのも、同じ天正13年のことである。嘉明は城を改築して石垣を築き、堀を広げて鉄砲戦にも備えた。このころ、近くを流れる大目川は大きく、入り海も深かったので、瀬戸内海に出る城として重要な意味があった。天正18年、嘉明は六百の水軍を組織し、小田原征伐に加わった。2年後の朝鮮出兵「文禄の役」にも水軍の大將として活躍した。

引用：1968年8月20日神戸新聞淡路版「夏草のなかに 城跡再見」(5)より

志知城守る会

お問い合わせ：090-1022-2732（担当：関口）

✉ shichijomori@gmail.com